

文部科学省人権教育研究指定校事業報告

一人ひとりを大切に、つながりの中で共によりよく生きようとする生徒の育成

鬼北町立広見中学校

1 はじめに

本校の生徒は、素朴で指示されたことには素直に取り組み、学習や生活態度も真面目で、生徒会活動や部活動にも意欲的です。しかし、人権問題に関しては、一人ひとりが解決すべき大切な問題としての認識はあるものの、自分の問題として捉えることができなかつたり、差別解消への思いを十分に伝えることができなかつたりするなど、仲間とのつながりの中で主体的に解決していこうとするところまでには至っていませんでした。そこで、一人ひとりを大切にする活動を充実させることを通して、仲間とよりよいつながりを持ち、人権問題への解決に向けて、主体的に取り組む生徒を育てたいと考えました。

2 研究の実践

(1) 授業づくり部会の取組

ア 人権問題解決を目指す教育課程の編成

人権問題の解決を目指す教育課程の編成に取り組みました。全体計画の作成に当たっては、教科や道徳科、特別活動、総合的な学習の時間（以下総合）との関連を重視しました。そして、人権強調期間を位置付け、3年間の系統性・関連性を明確にした教科等横断的な人権教育の年間指導計画を作成しました。

イ 人権教育の視点に立った授業づくり

「人権教育の視点に立った授業づくり」を推進する視点を、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」から捉えました。授業では、指導案中のねらいに記載することを共通理解し、日々の実践の中で上記の人権教育の視点の意識化を図りました。

ウ 教職員研修の充実

研究主題を具現化するための部会研修と、教職員の人権意識を高めたり、指導力を向上させたりする全体研修を充実させました。部会研修では、身近な地域の教材発掘や時期を捉えた資料づくりにも努めました。特に、講演をしていただいた本校先輩の生き様を資料とし、人権教育強調期間の教材として位置付けました。この資料は、人権紙芝居づくりや地域啓発活動にも活用しました。全体研修では講師を招いて、教師自身が自分の同和問題や道徳教育への関わりを見つめ直し、日々の教育活動の改善へつなげています。



【授業実践】



【自作資料・紙芝居の一部】

(2) 仲間づくり部会の取組

ア 生徒アンケートによる実態分析

7月と12月に人権についてのアンケートを実施し、生徒の実態と変容の把握に努めました。研究が進むにつれて、人権問題への認識や関心が高まり、解決への実践意欲にも一定の成果が見られました。しかし、消極的な考えも存在し、授業づくり部会と連携した明るい展望を持たせる人権教育の充実が課題となりました。

イ 人権教育の視点に立った話し合い活動や伝え合う活動の充実

生徒会活動や学校行事・総合等において、異学年間交流を積極的に進め、よりよい人間関係を築いていくことを目指しました。特に、生徒会活動の中で定期的に行うHCT（広中コミュニケーションタイム）では、異学年間で意見を出し合うことを通して、互いのよさや違いを発見し、仲間としての連帯感が高まりました。また、諸活動を通して伝える機会を充実させました。生徒会執行部の生徒たちは、昨年度、国立ハンセン病療養所大島青松園を訪問し、学んだことを伝えるため、文化祭で人権劇を披露しました。人権劇披露を通して、感じ学んだことを伝える難しさを知ると同時に、思いや学んだことが伝わる喜びを感じました。今年度も、各学年で人権紙芝居の作製に取り組み、文化祭の場で他学年の生徒や保護者に思いを伝えました。



【人権劇の様子】

ウ 支持的風土のある学級・学年集団づくり

学級づくりでは、短学活において、一人ひとりのよさを振り返る時間を設けています。グットビヘイビア（GB）チケットの活動は、教員が生徒の善行を紹介し、その思いを学級全体へ広げる活動となっています。GBチケットは教室掲示だけでなく、保護者にも伝えるようにしました。

(3) 環境づくり部会の取組

ア 家庭・地域との連携

7月と12月に保護者にアンケートを実施し、実態と変容の把握に努めました。結果については、肯定的な意見が増えてきています。授業公開や通信・HP等による双方向性を意識した積極的な情報発信の成果と考えています。学校運営協議会の中でも、人権教育について熟議を行いました。また、人権紙芝居を校区小学校の学習発表会で披露し、地域啓発の機会としました。

イ 自他を認め合う活動の充実

教室や廊下の人権に関する掲示物を充実させました。人権コーナーを設けたり、教職員による人権ポスターを掲示したりしています。ポスターは、掲示だけではなく、終わりの会等でも活用し、意味付けや価値付け等を図っています。

ウ 自己肯定感を高める支援の充実

教育相談の充実だけでなく、外部講師に講演を依頼し、自己肯定感の高揚を図りました。伝統のアルミ缶回収や災害募金活動といった地域貢献活動もHP・各種通信等だけでなく、新聞紙上で紹介していただき、社会の中で評価が高まることにより、自己肯定感の向上につながっていったと考えています。



【人権ポスターの一部】

3 おわりに

本校の実態を踏まえ、人権教育推進体制を見直し、研究を進めました。その結果、アンケート結果の考察や生徒の感想等から成果と課題が明確になってきました。本校は来年度創立50周年を迎えます。繋ぐ伝統の大きな柱として、人権教育の推進を位置付けていきたいと考えています。更なる高みを目指すため、「鬼の名の付く町」の中学校で、人権について「鬼」のように学び、「鬼」の目のように鋭く差別を見抜き、「鬼」のような気概で差別と闘う実践力のある生徒を育成していきたいと考えています。しかし、人権意識の高まりが十分でない場面も見られます。今後も研究推進体制をよりよく整え、家庭・地域と連携し、人権文化が校内の隅々に浸透していくよう取り組んでいきたいと思ひます。また、全教育活動が有効に機能するために、双方向を意識した行政・家庭・地域との連携を更に強くしていかなければならないと考えています。